



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第406号

「わたしたちは東方でそのかたの星を見たので、 拝みに来たのです」(マタイ 2・2)

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

明けましておめでとうございます。まだまだコロナ禍の日々は続きますが、主イエスの誕生を見届けたわたしたちがその命と共に、産声という平和の叫びを携え、周囲を照らし続ける存在として日々成長することができますように。

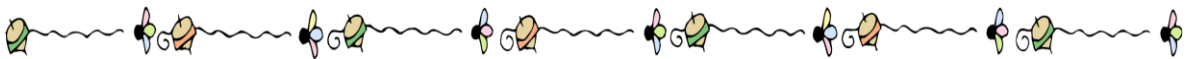
さて、1月18日(火)～25日(火)、全世界のキリスト教徒は心を一つにしてキリスト教一致祈禱週間を過ごします。今年のテーマは「わたしたちは東方でそのかたの星を見たので、拝みに来たのです」(マタイ 2・2)。「政治・経済の不当な抑圧によって人権が踏みにじられる世情にあって、特に2020年8月4日にベイルートで起こった爆発事故で人的・物的にも影響を受ける中で選ばれた今年のテーマには、『この困難な時代において、わたしたちはこれまで以上に暗闇の中に輝く光を必要としています。そして、その光はイエス・キリストのうちに示されたと、キリスト者は宣言します』という決意が込められている」などと紹介されています(カトリック中央協議会のホームページを参照)。

キリストの教会が多く教派に分かれてしまった今日、再一致のための運動は“エキュメニズム”と呼ばれ、1962年～1965年にかけて開催された第2バチカン公会議によってその意義が強調されました。ご存知のとおり、この世界中のカトリック教会を巻き込んだ世界会議によって様々なことが再確認されたのですが、閉幕から60年近くが経つ現在、どれだけの人がこの公会議をとおして示されたことの豊かさを理解し、享受し、応えきれているでしょうか。当然、わたし自身もこの問いかけに答えなくては いけません。この公会議は1959年1月25日、当時の教皇ヨハネ23世によってその年のキリスト教一致祈禱週間の最終日に開催が宣言されました(彼は2000年9月3日に列聖されています)。価値観の多様性が謳われる現代、ますます世界中のキ

となりひと	2面
旅の話(2)	3面
教会学校より	4面
幼稚園から	5面
広報委員より・活水	6面
委員会等報告	7面
お知らせ・ベトナム語ミサ写真	8面

リストの教会が一つにならなければ、受肉された主イエスの福音の真髓を伝えることが難しくなっていくことを自覚されてのことだったはずです。『エキュメニズムに関する教令』の序文にこうあります。「(多くのキリスト教共同体があることは)あたかもキリスト自身が分裂しているかのようである。このような分裂は真に明らかにキリストの意志に反し、また世にとってはつまずきであり、すべての造られたものに福音をのべ伝えるというもっとも聖なる大義にとっては妨げとなっている」。(『第2バチカン公会議公文書 改定公式訳』P248 エキュメニズムに関する教令 序文より)

クリスマス。占星術の博士たちが遠い外国から星に導かれ、ベツレヘムで見つけた神の子であるイエスの姿は唯一無二であって、彼らが人生をかけて探し続けていた真理と出会った出来事は教会をとおして証されるものです。今一度、世界中のキリスト教会と一つになって主イエスをお迎えしたこと、その姿が伝える真実を世界中に伝えなければならないことを一人ひとりが自覚して、2022年の歩みを始めていくことができますように。



世界の仲間たち となりひと 福嶋 東三子

ベトナム語ミサが、福岡司教区外国人神父によって12月11日土曜日夜7時から行われました。この日は20人ほどの若者と、シニア信徒二人が参加しました。日頃は毎週日曜日の日本語のミサに与っている若者たちも、この日はベトナム人のピーター・トアイ神父が執行される母国語でのミサと母国語で唄うマスク越しの聖歌を思い切り歌い、神を賛美する熱い思いと祈りが伝わります。

神父と信徒が交差する祈りの言葉は、オリエンタル風の郷愁を帯びたメロディーとなって、初めて参加する私の心を魅了していました。

遠く故郷を離れての文化や食生活、言葉も複雑な日本の企業で働き、技術を学び、日曜日には教会でのミサを欠かさず、家族のために祈る厚い信仰心には驚かされます。日々努力している彼等を応援せずにはいられません。

翻って私が知っている日本の若者たちは、豊かさに溢れていても感謝の心さえ失っているように思えます。戦後の日本は貧困から抜け出すために経済第一主義の生活になり、お金が豊かさの根源であると妄信していた親世代の姿を見て育った子供たちの世代です。時間の多くは努力せず簡単にお金を稼ぐ方法を見つけることやゲームなどに費やして、自分自身の心を静かに見つめ直すゆとりさえ失っているように思います。

私自身も本当の豊かさとは何か、何の目的があって生きているのか、誰の為に働くのか、彼等の信仰心と熱心さによってもう一度深く考える良い機会に恵まれた時を頂きました。来月もこのベトナム語のミサが行われます。皆さんも一度と一緒にミサに与りませんか？当日の様子は水巻カトリック教会のFacebookにて観ることができます。(当日の写真は8面に掲載しています)

旅の話 (2)

岩本光弘

初めて行ったフランスからは帰るのが大変でした。トゥールーズから夜行寝台列車でパリに戻りましたが、帰国するための飛行機の席が取れませんでした。オープンチケットでしたので三日前までに予約を入れないといけませんが、バカンスの時期と聖母降臨の日と重なって満席が続いていました。今と違って飛行機の便数も少ないころでしたので、1週間もパリに足止めになり、パリ周辺の観光や美術館巡りを全部することになりました。8月15日にはノートルダム大聖堂での大祝日のミサにも預かることができました。聖堂は満席で荘厳なパイプオルガンに感激しましたが、この時、国や言葉が違ってカトリック教会のミサは同じであることを初めて知りました。若いころに「山と教会のどっちが大事か」と言われた男ですから知らないのは当然でしょうね。ルルドの水をコップで飲んできた男ですから…。

本格的に聖地の旅をしたのはそれから10年以上過ぎてからでした。友人たちと毎月一回開いていた勉強会で、指導をお願いしていた広島教区の肥塚神父からみんなでトルコに行こうという話が出たことがきっかけでした。私はイスラエルに行きたかったのですが、使徒言行録のパウロの足跡をたどる旅をしようと言う提案にみんなが行くというので、北九州と広島教区の人たちと一緒にいくことになりました。

関西国際空港からトルコ航空機でイスタンブールへの直行便で行きました。この便は中国の上空を避けて、新潟からシベリヤ経由でした。ウクライナのキエフからまっすぐ南下して黒海を抜けるとイスタンブールでした。11時間の旅でした。

トルコはイスラム教徒の国ですが、かつては東ローマ帝国の首都コンスタンチノーブルでしたので、各所にキリスト教の遺跡が残っていました。かつて世界最大の聖堂で今は博物館になっている「アヤソフィア」や古い修道院に描かれたイコンは素晴らしいものでした。その後に行ったイスラエルやギリシャの旅がイスタンブール経由だったのでアヤソフィアには合計4回も行きましたが、この聖堂は何度行っても素晴らしい世界遺産だと思います。私が一番好きなのはアヤソフィアの正面上部に描かれている聖母子像です。

三日目に国内線のフライトで東の町に移動しました。そこから一日かけて訪ねたのは「シリヤ州のアンティオキア」でした。「かれらはキリスト者と呼ばれるようになった(使徒言行録11章10節～)」と書いてある町です。この都市はローマ帝国の時代には四大都市と言われるほど大きな地中海の主要港でしたが、二千年の間に街の真ん中を流れる川からの土砂によって港が使えなくなり、その上に四回の大きな地震によって小さな町になってしまいました。キリスト教の遺跡も少ししか残っていないのですが、町の横の山の斜面に残る「聖ペテロの洞窟教会」は当時のままに残っています。この教会での説明には聖書に出てくる聖ペテロ・聖パウロ・聖マタイ・聖ルカの名前が簡単に出ます。聖書の世界が現実実感できるから不思議でした。特に洞窟教会の土地はルカ家の持ち物であったことや、マタイの福音書はこの洞窟の中で書かれたという話には感激したことを覚えています。聖書の世界と今が現実につながっていることを実感できる場所でした。

教会学校のページ

11月14日「七五三」の祝福式がありました。とはいっても対象者が少数、またミサ自体が2部制でもあり大きくり小学生以下の祝福式となりました。

子ども達は、神父様から頂いた「千歳飴(?)」を抱えてニコリ。とてもうれしそうな顔が印象的でした。

12月には「福岡コレジオ」の指導司祭と生徒4人の方がみえられ、典礼式を一緒にあずかりました。見えられた目的は、「福岡コレジオ」が「福岡カトリック神学院」に移転する報告と、こどもたちへの「召命のいざない」だそうで、ミサ後は、子どもと一緒に駆け回って遊んでくれました。

ちなみに詳しくは福岡教区報に掲載されています。ご一読をお勧めします。21年12月号です。

谷口神父様も「福岡コレジオ」におられたそうです。

12月19日ミサ後、募金活動が行われました。今年もコロナ禍で大人の街頭募金が行われなかったため、教会としては唯一の募金活動となりました。この日も2部体制の御ミサだったので、1部はミサ後、2部との間の一時間は教会学校、2部ミサもミサ後に教会聖堂の後ろで募金協力を仰ぎました。

「ご協力、お願いします」の声も一部ミサ後は小さな声でしたが、慣れが出た2部ミサ前の募金ではしっかり声も出てとてもよかったです。皆さんから寄せられた募金はしっかりと届けます。募金金額は来月号に掲載します。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 1月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<水巻聖母幼稚園>

12月にクリスマス生活発表会がありました。2年ぶりに保護者の方に観覧していただいたので、初めてお客さんがいる中で自分を表現する子も多かったです。緊張をしていましたが、堂々とセリフを言ったり、踊ったりしていたので、子どもたちの姿に驚きました。年長児から満三歳児まで、自分のなりたい役・踊りを選び、毎日の練習を頑張りました。

発表会を終え、先日園児観覧を行いました。年長児は、年下の子たちに聖劇を通してイエス様のご誕生を教えてくれ、また、憧れをプレゼントしてくれました。発表会を通して、イエス様のお祝いをすることができ、とてもよかったです。

水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559

e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp



<マリア子どもの家>



神父様がお部屋に来られ、待降節のお話がありました。4本のろうそくの意味やクリスマスを優しい心で待ち望むことなどについて、お聞きしました。プレゼントをもらうだけのクリスマスではなく、クリスマスの特別の意味が何となく分かったでしょう。

月に3~4度ですが、子ども達は給食室のお手伝いをするのが大好きです。

明日の昼食「人参しりしり」のために、テラスで玉葱の皮むきをしました。4キロ、15~16個入りの二袋の玉葱が、見る見るうちにみんなの力で真っ白になりました。「むきましたー」と重い玉葱を抱えて給食室に持って行くまでがお手伝いです。給食室の先生方の「ありがとう！」が嬉しい御褒美です。



TEL : 050 5212 7759

HP : 水巻町マリア子どもの家
水巻聖母 幼稚園・マリア子どもの家
園長 水口 由美

あけましておめでとうございます。 広報委員長 山口一隆

年頭から愚痴めきますが、このところ「からしだね」、書き手不足が深刻化しています。コロナ禍とあってミサが2部制、原稿依頼の相手がコロナ以前の半分に。さらに3度の「緊急事態宣言」の発令で信徒の皆さんと会えない日々が続きました。絶対的なコミュニケーション不足がありました。

日々会っていれば、簡単な原稿依頼もコミュニケーション不足では依頼する方も迫力が出ない。

今やっとの思いで「からしだね」8ページを堅持しています。今の調子では8ページ堅持は苦しいです。

そこで皆さんに、お知らせします。ミサの2部制が解かれるまでページ建てを8ページに固定しない、変則ページでの編集がありうることをご理解ください。

「活水」や「ガンバ2」にかわる企画のページも変えていきたいと思います。活水の1ページは書き手としては重いです。現行の1200から1300字を半分にして気楽に書いてもらえるよう配慮していこうと思います。

どうかこれからも「からしだね」をよろしく願いいたします。



私の幼い頃のことを書こうと思います。

初聖体の思い出です。私は初聖体を長崎の浦上教会で受けました。小学一年生でした。

その頃、私は家庭の事情もあって妹と二人で、浦上教会からほど近い江平の叔母のところに預けられていました。一年生の夏休みあたりから一年生の終学まで。この間に浦上教会の仮御堂の隣にあった信徒会館で初聖体までの勉強をしました。

今では遠い思い出なので週何度ほど通ったか、忘れましたが、週2度ほどであったと思います。

ベビーブームの終焉近かったせいもあって、100人近くが一度に初聖体を授かりました。住んでいた小さな村江平でも十数人いたのですからもっといたかも。

その頃は、今のように勉強もやさしくなく、聖堂では行儀が悪いと、げんこつが飛んできました。「教え方」の助手でしょうか、勉強の間もじっと我々の行動を見張っていました。だから、勉強よりも助手さんの方が怖くて、皆そわそわしたものです。

それでも初聖体の時は、ほかの誰よりも喜んでくれました。何よりの思い出です。

初聖体の時は、一張羅で当時の最上のおしゃれをしました。式の記念にはメダイを買いました。おそらくはアルミかアルマイト。赤いリボンで結ばれており、これをかけて集団写真。江平に帰ってからもこの日の初聖体同級生と記念写真。村を挙げてのお祝いでした。

委員会等報告

2021年12月分

12月度小教区委員会 12月5日

1. 行事予定

- ・1月1日(土) 神の母聖マリアのミサ
10:00~ ミサはこの1回のみ
成人のお祝い、車の祝別
- ・1月2日(日)主の公現のミサ
10:00~ ミサはこの1回のみ
- ・1月3日(月) ベトナム語のミサ 8時~
次回は1/22(土)19:00~。
- ・1月9日(日) 11時のミサ後クリスマス
飾り付け撤去。
- ・1月16日(日) 小教区委員会

2. 議題

(1) 各委員会報告

①広報委員会

- ・記事の書き手不足が深刻で、対策を検討。

②典礼委員会

・クリスマスのミサの流れを確認した。今年もキャンドルサービスは中止(密を避けるため)。共同祈願だが、教会学校、レプトン会、役員会、ベトナムの方に共同祈願を依頼することとなった。聖堂後方が密になるので、席は4人~5人掛けにし、パイプ椅子を設置することを検討する。

⑤総務委員

・検討されていた「お花を植える会」は自主活動とする。定期的な活動にするためには持続的なエネルギーが必要である。

(2)屋根の葺き替え工事、建設献金積み立てについて

・教区長への申請書を提出。教区顧問会の開催と許可を待っている状況。許可を得たのち、工事を依頼。その後、信徒へ説明会を依頼する。建設献金用の納入袋は準備が出来次第、配布する。

3. その他

(1)2022年の待降節から始まるミサ式次第の準備のために

・1月11日(水)に司祭研修会があり、その中で式次第の説明が行われるため、それを経た後に典礼委員会主体で準備の方法を検討することとする。

(2)四旬節前に発送していた手紙について

・今後は送付しない。四旬節、聖週間のスケジュールは「からしだね」や「お知らせ」に載せるため。

(3)降誕祭のパフレットについて

・B4サイズ(二つ折り)のものを松尾隆氏にお願いして準備していただく。

(4)降誕祭でのカイロの配布

・ミサ後のパーティーは2年連続中止になってしまったが、何も無いのは寂しいので、今年は使い捨てのカイロをプレゼントとしてお配りする。

(5)「からしだね」と「心のともしび」の必要部数把握のため

・忘れずにチェック欄にサインをしていただく。しばらく「お知らせ」に載せて各人に呼びかける。

1月のおしらせ

★元旦ミサ(神の聖母マリアミサ)★

日 時：1月1日(土)
午前 10 時～ 1 回のみ

成人のお祝い、車の祝別があります。
新年茶話会はありません。

★主の公現ミサ★

日 時：1月2日(日)
午前 10 時～ 1 回のみ

この日は、日曜日ですが、いつもの時間
と始まりの時間が異なっています。

★ベトナム語のミサ★

日 時：1月3日(月) 午前8時～
1月22日(土) 午後7時～

★主の洗礼ミサ★

日 時：1月9日(日)
2部制で行います。
11 時ミサ後にクリスマスの飾り付け
の片づけをします。



ピーター・トアイ神父を
囲んで記念撮影